

総合科学技術会議

「気候変動適応型社会の実現に向けた技術開発の方向性立案の
ためのタスクフォース会合」

第7回会合説明資料

環境省における「適応」の主な取組

「グリーン社会インフラの強化」に関連する主な取組

平成21年9月8日

環境省

目次

1. 環境省における適応関連の取組(全体に係るもの)

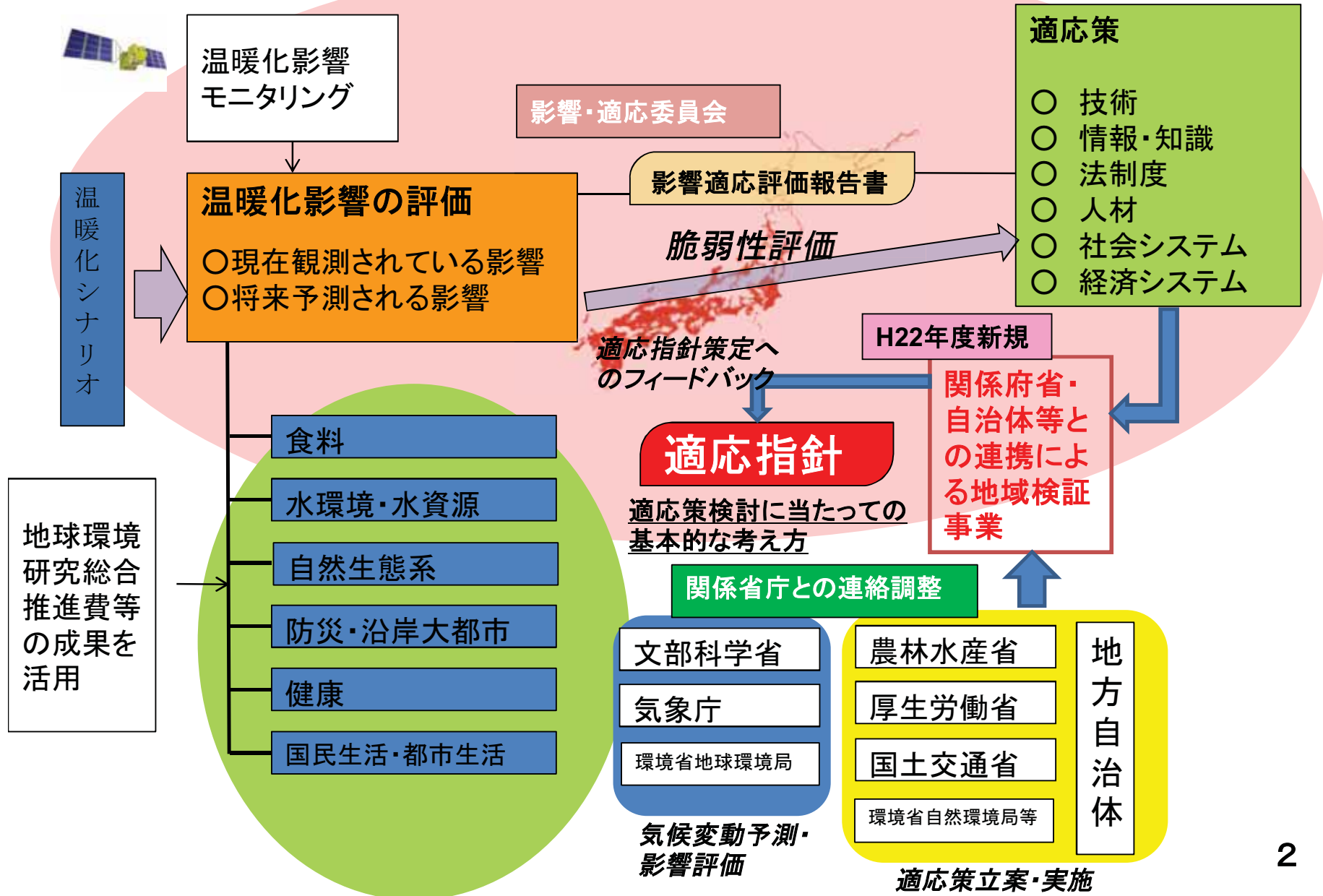
- (1) 気候変動影響・適応に関する情報収集・評価・対策事業
- (2) 地球環境研究総合推進費
- (3) 気候変動影響評価・適応パートナーシップ(アジア太平洋地域)推進事業

2. 「グリーン社会インフラの強化」に関連する主な個別取組

- (1) 気候変動による水質への影響解明、適応策検討調査
- (2) 水環境保全におけるフットプリント導入調査
- (3) 衛星による地球環境監視推進費

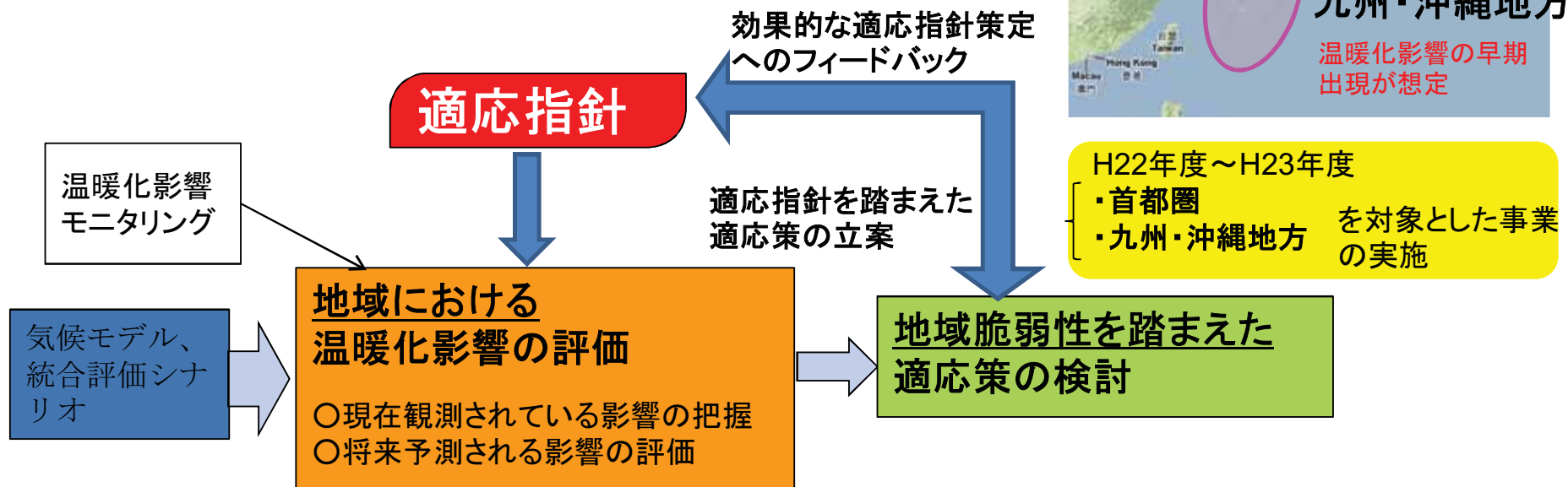
1. 環境省における適応関連の取組(全体に係るもの)

(1)「気候変動影響・適応に関する情報収集・評価・対策事業」



○地域検証事業の実施(H22年度～)

関係府省、自治体等との連携による、都市レベル・地方レベルにおける、適応指針に基づく気候変動影響の評価、予測、適応策の検討を実施。



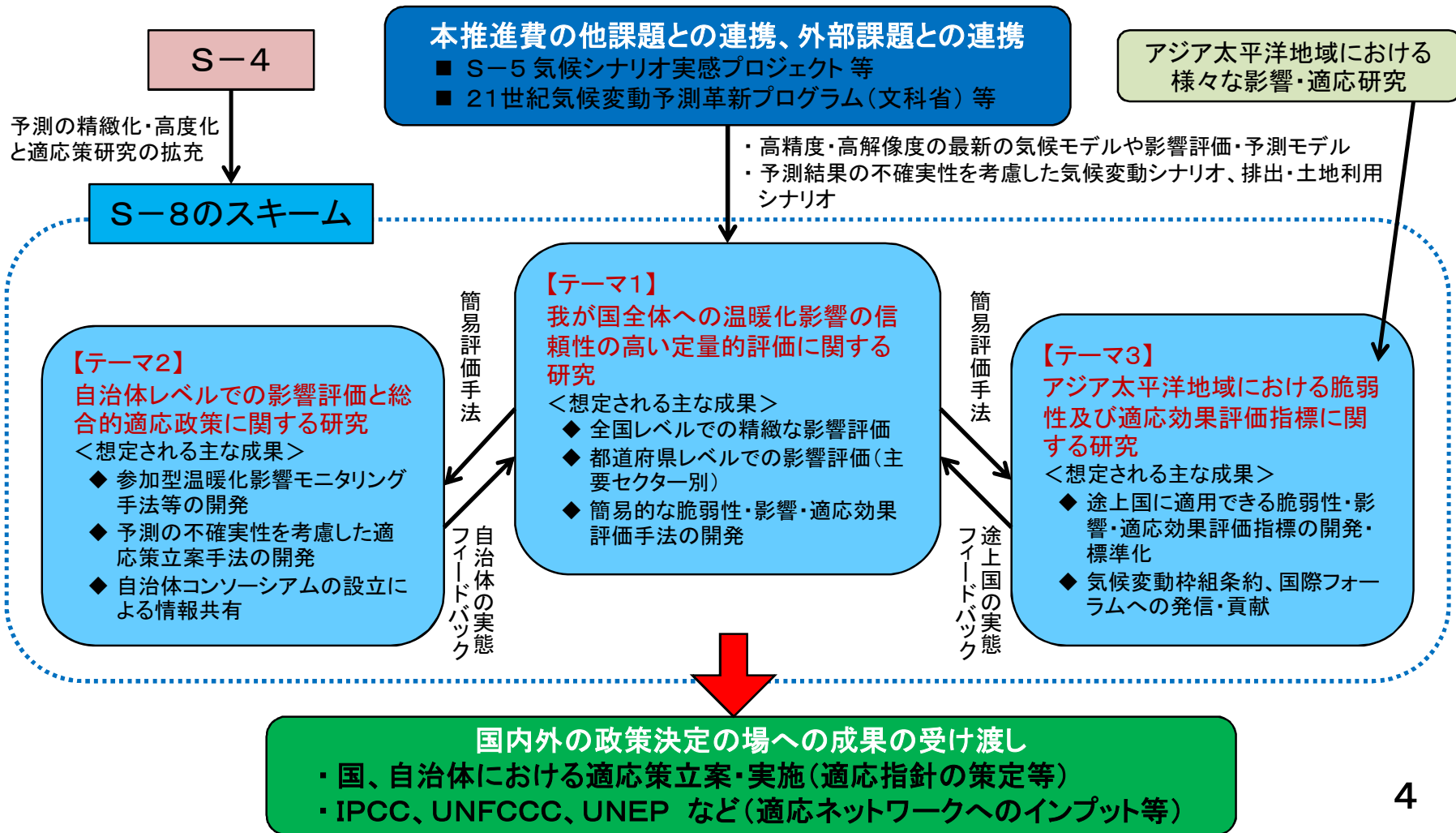
- ◆適応指針の地域運用における課題等の明確化により、より効果的な適応指針の策定が可能に
- ◆我が国における気候変動影響を最小限とする体制の確立に貢献

(2) 地球環境研究総合推進費(競争的研究資金)

温暖化影響評価・適応政策研究総合プロジェクト(仮称:新S-8)(H22年度~)

目標

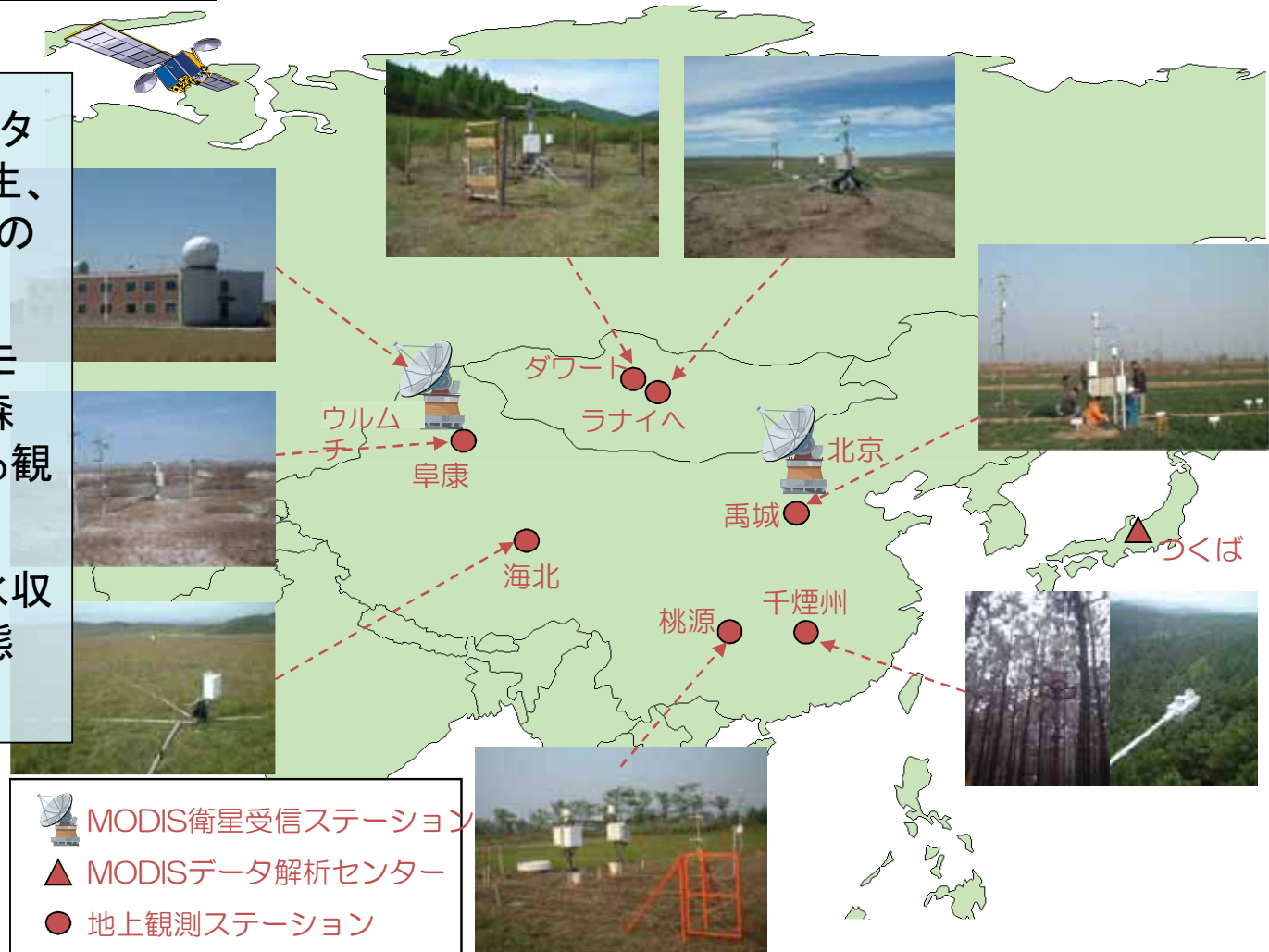
- 温暖化に伴う我が国全体及び自治体レベルでの影響の定量的評価
- 自治体・途上国レベルで利用可能な簡易的な脆弱性・影響・適応効果評価手法及び適応策立案手法の開発
- IPCCAR5を始めとする国際フォーラムへの研究成果の発信



(3)「気候変動影響評価・適応パートナーシップ(アジア太平洋地域)推進事業」

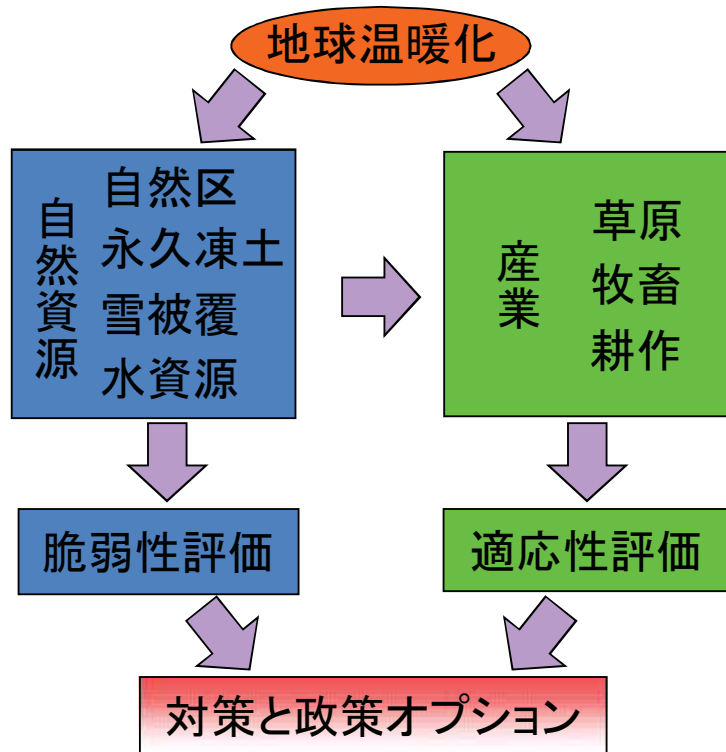
温暖化早期ネットワークの構築

- ・リモートセンシングデータによるアジア地域の植生、土地利用、氷雪被覆等のモニタリング
- 温暖化最前線であるモンゴルでの凍土変動(森林と草原地帯)に関する観測、影響要因の解析
- 黄河・長江流域での水収支解析、農業生産・生態系への影響評価



東アジアをカバーできる衛星・地上観測システムネットワークを構築(衛星2拠点、地上7拠点)

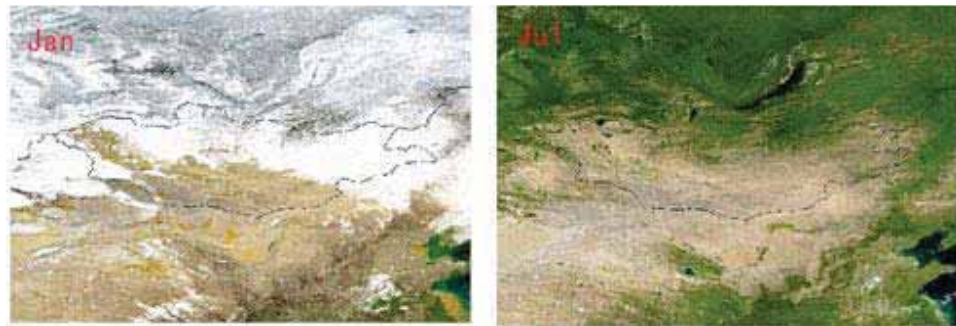
脆弱な途上国における影響評価・適応実証事業(H22年度～)



- 温暖化最前線のリアルタイム評価
- 水・熱管理による森林・草原・農地・水田・凍土域の持続利用対策

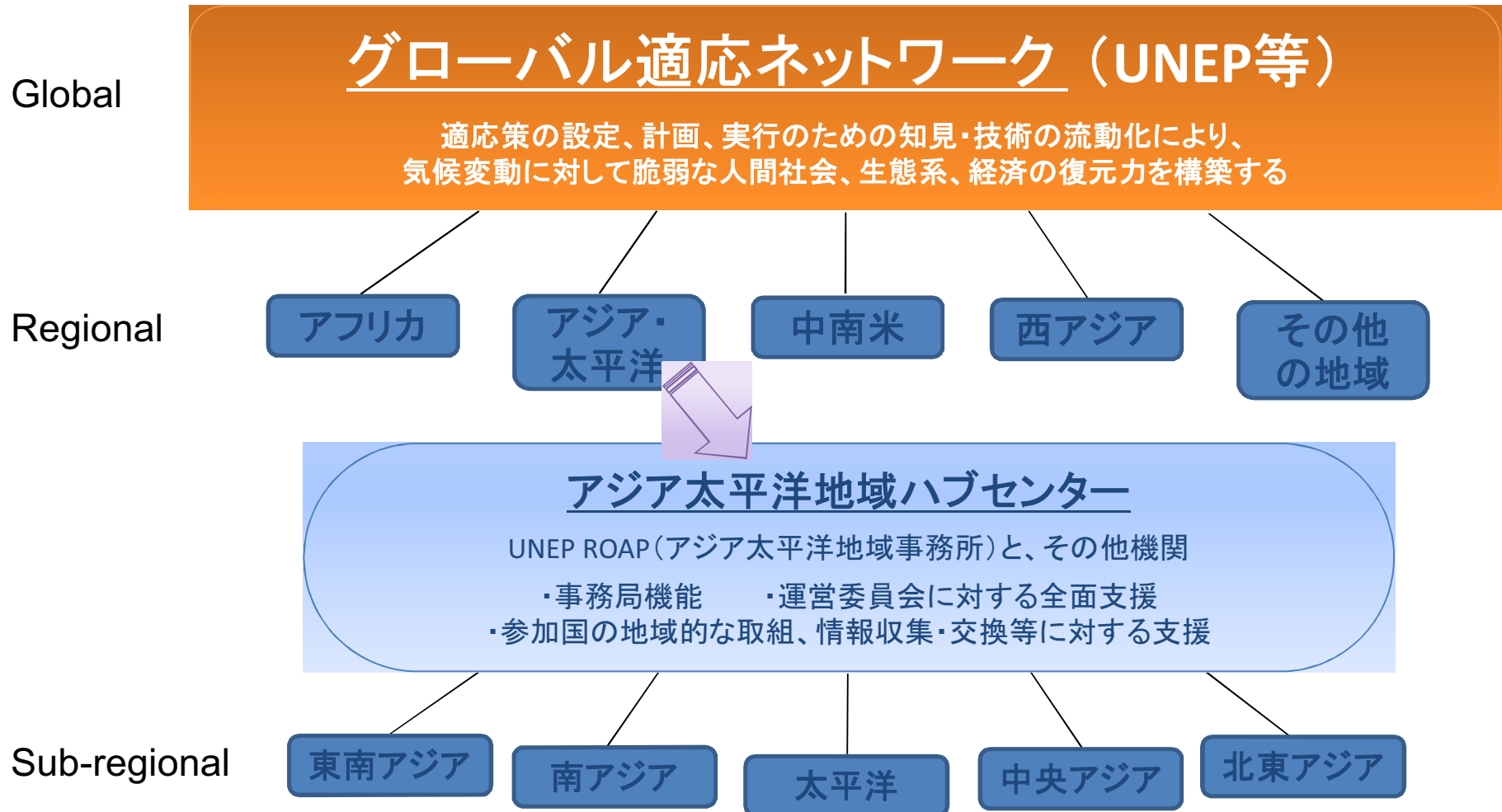
(例) モンゴル永久凍土の調査

1. 衛星解析データ(MODIS高次処理データ)を用いて、永久凍土分布図を作成する。
2. 地中レーダーなどの現地調査データを用いて、その分布図の精度を検証する。
3. 評価モデルによる影響予測シミュレーションを行う。
4. 永久凍土融解に伴う地下水量変化に対応する水資源開発など、科学的な影響評価に基づく適応策について、その効果を実証する。



MODISによるモンゴル高原での雪・植生被覆データ 6

アジア太平洋地域ハブセンター支援事業(H22年度～)



我が国の貢献

- ・ 情報交換ハブセンター設立・運営支援
- ・ アジア・太平洋地域以外の地域の適応技術・知識ネットワークとの連携構築